

パブリックコメント手続の対応

資料1

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方（案）
1	<p>「つながる」、「はぐくむ」、「やくだつ」の「つながる」の取組として、図書館利用者同士が交流できる仕組みの創設を提案する。既存の「図書館応援団」は図書館運営の補助が中心であるため、利用者交流を目的とした「図書館愛好会」の設立を望む。年1回程度、読書量の多い利用者が集まり、図書館の評価や改善点の共有、好きな本の紹介を行うほか、その中から漫画や小説、雑誌等の分科会による交流の広がりも期待する。ワークショップでの交流を「つながる」の第一歩と捉え、継続的なつながりを望む。</p>	<p>今後、新図書館の詳細な運営方法を決定していく際に、市民・利用者の皆様の交流を図り、より多様なご意見をいただく方法についても検討してまいります。</p>
2	<p>概算事業費が概ね66億円もの額となっており、慎重に事業を検討すべき。 伊勢崎市図書館における令和6年度の空調設備更新工事で約5,000万円もの多額の費用が掛かっている。 (同趣旨の意見等 2件)</p>	<p>基本構想（案）111ページに記載したとおり施設全体の建設費の66億円は、先進事例から参考に試算したものであります。 また、基本構想（案）110ページに建設物価の動向をお示ししておりますが、現在の社会情勢からさらに増加する可能性もあります。施設全体のライフサイクルコストを含めて可能な限りのコスト削減に向けて今後、多角的に検討してまいります。 基本構想（案）23ページに記載してあるとおり、令和6年度に現在の図書館の空調設備更新工事として50,270千円を支出しております。建設から約50年経過する中で、空調設備が老朽化し、冷温風を発生させる水槽から漏水があったことから、各諸室の送風機などはそのまま利用することとし、この入れ替えを中心に限定的な工事を実施し、利用者に影響を与えぬよう対応したものであります。</p>
3	<p>中心市街地の活性化に向けて、美術館や図書館、市民ギャラリーを核とした「公園のように自由に過ごせる」滞在型複合施設の整備を提案します。 施設内又はすぐそばにカフェやショップなどもあるといいと思う。学生が集中して学べる自習スペースや、ファミリー層を意識したのも考えてもらいたい。</p>	<p>基本構想（案）では、美術館や市民ギャラリーを核としてはおりませんが、図書館を核として、単なる資料提供の場に留めず、市民が「居心地の良さ」を感じ、長時間滞在できる「サードプレイス（第三の居場所）」として滞在型複合施設となることを目指しております。 学生が、周囲に刺激を受けながら学びを深められるよう、電源や仕切りを備えた個人学習室に加え、談話しながら研究できるグループ学習室の設置を検討しているとともに、親子でゆっくり話したり、ワイワイしながら自由に読書を楽しめるよう児童スペースを充実させるなど、ご提案のような学生が集中して学べる自習スペースやファミリー層を意識した空間の実現を目指してまいります。</p>
4	<p>現在の図書館に、新しいコンセプトの美術館機能を持たせ、専門性の高い学芸員およびスタッフを配置すること。</p>	<p>また、利便性向上のための飲食・販機能についても、屋外空間の活用を含め幅広く検討を進めていく考えです。 上記にかかる基本構想の文言等は原案のとおりとします。 伊勢崎市図書館移転後の現施設の利活用については、みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会からの提言を踏まえ、老朽化の状況や安全性等を十分に考慮した上で、利活用の可能性について検討していく方針を基本構想に追記します。</p>
5	<p>昨今の新築のPPP/PFI案件は、予定価格と民間事業者の見積価格が乖離し、応募者なしや辞退で不調に終わる例が多く、事業遅延や自治体の事務負担増を招いている。 予算設定は過去の類似事例だけを採用せず、人件費や建築資材、設備、水光熱費などの高騰を考慮し、実勢に合った予算設定とすることに加え、物価スライド協議の明確な基準の設定が必要だと思う。</p>	<p>本事業における予定価格設定にあたっては、類似の先進事例のみを参考とするのではなく、市場へのヒアリング結果や建設物価等の状況を踏まえ、実勢に即した事業費の算定に努めてまいります。 また、物価変動等に伴う協議基準の明確化などのご提案内容については、事業者が過度なリスクを負うことのない先進事例を研究するとともに、事業者選定における事業者との対話の中でも必要性について検討してまいります。</p>
6	<p>図書館運営の中核業務は市直営の方針だが、民間に全て委託（指定管理）の方がサービス面の充実、他拠点との連携や地域との関わりの取り組みなどが期待できるのではないか。PFIやDBOの場合は運営企業のノウハウを設計に反映することも期待できる。</p>	<p>本事業における図書館の運営手法につきましては、直営・業務委託・指定管理の各手法を比較検討した結果、本市の中央図書館としての役割を安定的に果たしつつ、市民ニーズに柔軟に 대응するため、基本構想（案）91ページから92ページの5.4.7.管理運営計画に記載のとおり、窓口（フロントオフィス）業務や学習・交流スペースの管理業務については、民間事業者の柔軟な勤務制度やノウハウを活用した業務委託の導入を検討しています。 一方で、「バックオフィス業務」や、専門性の高い「レファレンス業務」などの中核業務については、市の直営とすることにより、イベントの充実やサービスの質的向上など、より付加価値の高い市民サービスへと振り向け、市の施策をダイレクトにサービスへ反映させるとともに、中央図書館としての運営ノウハウを市に確実に蓄積してまいります。 基本構想の文言等は原案のとおりとします。</p>

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方(案)
7	<p>現伊勢崎市は旧伊勢崎市と旧赤堀町、旧国定村、旧境町の対等合併により成立しており、市政の利害得失は全市民が公平・対等に共有すべきではないか。特定地域が有意に利益又は不利益を受ける施策の推進は十分な合意形成を図るべきと考える。</p> <p>市政運営において、市は投資のパフォーマンス/コストの最大化に配慮するのは当然であり、財政の硬直化を招く負の資産を極力圧縮すべきであり、市有施設の新設・撤去・維持管理等に最大限に配慮して、経費節減を図るべきである。本基本構想に基づく諸施策は、別記のとおり財政健全化に反しており、再考すべきものとする。</p> <p>伊勢崎市定住自立圏形成方針によれば、中心商店街の活性化に係る取組について、「日常生活に欠くことのできない商店街の活性化を図るため、コミュニティの場として商店街づくりを促進する。特に、伊勢崎駅周辺や境町駅周辺などの特色ある地域資源の活用を図りながら、まちづくり活動と一体化した取り組みを進める。」としている。合併後の新・伊勢崎市としても、旧伊勢崎市街地のみを優遇せず、合併の精神は放棄すべきではない。</p>	<p>本市は、平成17年1月1日の4市町村による市町村合併から20年が経過しておりますが、この間、全地域の均衡ある発展、一体性の確保に向け、旧市町村の文化、歴史、風土を大切にしながら市政運営に取り組んでまいりました。</p> <p>基本構想(案)に関連して多角的な視点からの貴重なご意見をいただいておりますが、図書館には、本の貸出しだけでなく、多様なサービスの提供が求められており、現在の伊勢崎市図書館には、閲覧スペースや書庫といった図書館の中核的なサービスのためのスペースも不足し、交流型事業の実施や滞在型サービスの提供をしていくことが困難な状況となっておりますことから、現在の図書館の移転を機に中心市街地の活性化を目指し図書館を核とした複合施設を目指しております。</p> <p>ご指摘いただいた市民の合意形成にも努めながら策定を進めてまいりましたが、引き続き丁寧な周知や市民が参画する検討により合意形成に努めてまいります。本構想(案)は、中心市街地の賑わい回復の一つの手段として、多くの人が集う複合施設を目指しております。</p> <p>この実現により賑わい再生へのパフォーマンスが最大化できるよう、また、周辺商店街にもこの効果が波及するように努めてまいります。</p>
8	<p>宮郷地区には公民館以外に目立った公共施設がない。中心市街地の活性化に重点が置かれてが、宮郷地区についても、今後さらに活性化に向けた取り組みを進めてほしい。</p>	
9	<p>本市の図書館については「伊勢崎市図書館課所管施設個別施設計画」により、当面は現有施設を適切に維持管理し、継続利用する方針であり、大規模な新設・移転計画は示されていない。文化会館の改修事例のように、既存施設を活かす判断は先進的であり、重要な市有施設に関する市民の記憶等は金銭に代えがたい文化的価値もあるため、撤去には慎重な合意形成が必要だと考える</p>	<p>現行の「伊勢崎市図書館課所管施設個別施設計画」において、現有施設は適正な維持管理による長寿命化を図る方針としておりますが、基本構想(案)を踏まえ、適切な時期に改訂してまいります。</p> <p>図書館には、本の貸出しだけでなく、多様なサービスの提供が求められておりますが、現在の伊勢崎市図書館には、閲覧スペースや書庫といった図書館の中核的なサービスのためのスペースも不足しており、交流型事業の実施や滞在型サービスの提供をしていくことが困難な状況となっております。</p>
10	<p>現在の図書館をリノベーションし、「中心市街地にぎわい創出拠点構想」を拡張する形で位置づけること。</p>	
11	<p>移転ではなく現図書館で増築・駐車場の拡張をしてほしい。 (同趣旨の意見等 7件)</p> <p>以下、詳細意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニ、カフェ、飲食スペース、広い学習室(静かに勉強できる)、広い駐車場を今ある図書館で ・子供の頃からずっとお世話になった場所。私たちから大切な場所をうばわないで!! ・勉強したり、子育てしたり、マルシェやったり…40~50代には大切な図書館なんです。わかってほしい。 ・子供の頃から慣れ親しんだ場所 ・この場所だから良いのにこの川沿いにあるから良いの。 ・今の図書館に増築して土手の方まで大きくして、駐車場ももっと大きくしてほしい。(屋上や地下) ・街中に移転したら今以上に駐車場が問題になります。市のものでなくなると土地代や利用費等は発生するのではないですか?少しでも費用を少なくしてほしいです。 ・織物会館を正田嬢さんの作品を展示する場所にしたら良いと思います。図書館を移転するとなると今ある会館は取り壊すこととなりますよね。おかしいです。 ・織り物は織り物。ハニワはハニワ。図書館は図書館。一緒にするには共通点がおかしい。これまで通り同じ場所に大きくして建ててほしい。土手沿いに増やせば良い。駐車場も屋上や地下に作ってほしい。 ・古書を保管できる建物が近くにあれば良いと思う。 	<p>将来にわたって図書館が市民の学びや生活の向上に貢献していくためには、交流や学びを促進し、生活や文化の向上を図り、自ら活動する市民の活躍を支えるための機能を備えた新たな図書館が必要となっております。</p> <p>伊勢崎市図書館移転後の現施設の利活用については、みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会からの提言を踏まえ、老朽化の状況や安全性等を十分に考慮した上で、利活用の可能性について検討していく方針を基本構想に追記します。</p> <p>これまでの検討経過の詳細については市ホームページをご覧ください。 https://www.city.isesaki.lg.jp/soshiki/kikakubu/jimu/gyokaku/nigiwaisoushitsu/13486.html</p>
12	<p>現在の図書館は広瀬川河畔の景観に調和した優れた施設であり、市民に長く親しまれている。仮に耐震性に課題があるとしても、改修等により存続させる価値があると考えられる。</p> <p>十分な改修を行った施設を、手狭を理由に取り壊して新設する判断は、市民感覚からすると理解しがたい。公共施設整備にあたっては、安易な新設ではなく、既存施設の価値や市民の視点を踏まえた慎重な判断が求められる。</p>	

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方(案)
13	ICTの進展により、情報・交通・通信の分野は、ハード中心からソフト中心の運用形態により多面的な効果が期待できる時代になっている。行政インフラとしての図書館が、市内全域の市民や児童・学生に等しく恩恵を及ぼすには、旧市街地への一極集中型の新図書館整備では不十分である。むしろ、公民館や支庁にミニ図書館を併設し、市内図書館をネットワーク化すべきであり、利用者拡大と文化・教育投資の効果向上が期待できる。図書館のネットワーク化は、既に国レベル、県レベルでも取り組みが始まっている課題である。	基本構想(案)においては、拠点内に全面移転することを想定している伊勢崎市図書館についての記述が中心となっておりますが、赤堀図書館、あずま図書館、境図書館を廃止して新伊勢崎市図書館に統合するものではございません。 また、基本構想(案)65ページに記載のとおり、各図書館及び配本所(ナルセグループ伊勢崎市市民プラザ図書室、豊受公民館図書室)のネットワークを活用した配本、資料提供と、市内の全小・中・中等教育学校図書館とのネットワークを通じた児童・生徒への配本、資料提供の体制が整備されております。 基本構想(案)の実現により中央館である伊勢崎市図書館の機能がさらに強化されることを通じて、市内の他の図書館・配本所を利用する市民や学校図書館を利用する児童・生徒へのサービス向上にもつながるものと考えております。
14	基本構想(案)は魅力的に描かれているものの、都市計画や交通政策の観点から、駅利用者数や人流に関する具体的データや分析が不足している。行政投資には費用対効果の検証が不可欠であるが、本構想では対象区域の人流の性質や規模が十分に見極められていない。 当該区域は住宅都市的性格が強く、駅利用者も多くも通勤・通学者であることから、新設図書館の利用者が大きく増えるとは考えにくい。中心市街地の衰退や商業機能の弱さもあり、性格が不明確な複合施設を整備しても、投資に見合う人流を形成できるか疑問である。	基本構想(案)72ページに記載のとおり現伊勢崎市図書館の来館者数は概ね年間20万人程度ですが、本拠点に整備する新たな図書館としての役割を果たすため、オープン初年度における来館者数の目標を現状の2倍である「年間40万人」といたしました。 市民ニーズを踏まえた蔵書や読書・学習環境の充実に加え、開館時間の延長やこれまで休館だった祝日の開館などによるサービスの充実を図るとともに、複合施設の他の機能との有機的な連携により拠点全体の価値を高めてまいります。
15	基本構想(案)では賑わい創出の切り札として図書館新設が浮上しているが、市政内部や市民全体に対する十分な意見集約・意見聴取が行われていない点が問題である。加えて、移転後の旧図書館の解体や利活用方針も明確ではない。曖昧な計画のまま多額の工事費を伴う事業を進めることは、将来に負の遺産を残す恐れがある。また、検討に関わる有識者に市OBや利害関係者が含まれていることから、意見集約の妥当性にも疑念が生じる。	基本構想(案)7ページに記載のとおり、中心市街地の整備及びにぎわい創出に向けた取組が進む中で、令和3年12月に伊勢崎織物協同組合所有地の活用について組合と本市の間で協定を結んだことを契機として、具体的な検討を進めてまいりました。 令和4年度には、外部有識者で構成する「中心市街地にぎわい創出拠点整備に係る検討委員会」から基本構想(素案)のもととなる意見書により「創業×情報」をキーワードに導入すべき機能などの提言がありました。 令和6年度には国の補助金支援を得て、民間活力導入可能性調査を行うとともに、市民や団体へのヒアリングやアンケートを実施し、ニーズの把握に努めてまいりました。こうした経過を踏まえた基本方針を中心市街地にぎわい創出拠点整備基本構想(素案)として公表しました。 令和7年度の検討プロセスにおいては、基本構想(素案)を基に、オープンハウス(パネル説明)を実施し、市民からの意見を聴取するとともに、有識者・関係者・公募市民からなる「みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会」を設置し、市民ワークショップや高校生グループインタビューの検討成果を踏まえ、施設のあり方や機能、事業展開について具体的な議論を重ね、基本構想(素案)を具体化してまいりました。 検討経過の詳細については市ホームページをご覧ください。 https://www.city.isesaki.lg.jp/soshiki/kikakubu/jimu/gyokaku/nigiwaisoushitsu/13486.html
16	少子高齢化が進む中、不要な施設整備への投資余力は乏しく、既存施設には市民の思い出など無形の価値も存在する。現行図書館の主な利用者である学生や児童は現状に概ね満足しているように見え、喧噪を伴う複合施設が真の利用者に受け入れられるか慎重な検証が必要である。他市の成功事例を根拠に本市の成功を期待することは難しく、図書館整備のみで旧市街地に十分な人流を生む可能性は限定的である。資金はより有効な活用を検討すべきである。	「道の駅」や「まちの駅」に関するご意見については、今後の市の施策の参考といたします。
17	基本構想(案)と類似する地域振興策として「道の駅」「まちの駅」があり、いずれも実績が豊富で検討に値する。本市では未実施と思われ、基本構想(案)は事業化まで長期化する懸念がある。 「道の駅」は知名度は高いが周辺に多数あり新規性に乏しい一方、「まちの駅」は運営主体が多様で柔軟性が高く、市全体を「まちの駅」と捉えた再構成により人流拡大と回遊促進が期待できる。 本市は交通利便性が高い反面、郊外集中により中心市街地が衰退しており、図書館複合施設のみで中心市街地活性化を担うことは難しいと考えられる。	「道の駅」や「まちの駅」に関するご意見については、今後の市の施策の参考といたします。
18	「まちの駅」方式は、全国まちの駅連絡協議会の会則に基づき、複数の拠点を運営できる柔軟な仕組みである。これを活用し、市内各地域に複数の「まちの駅」を配置・ネットワーク化することで、既存の行政施設や図書館等を活用しつつ、投資を抑えながら基本構想の実現が可能となる。 この方式は新たな箱物整備ではなく、既存の社会・経済インフラを再構成・再活用し、市全体を「まちの駅」としてブランディングする点に特徴がある。 本市には担い手や産業基盤は既に存在しており、必要なのは地域活性化に向けた体制づくりである。	

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方(案)
19	<p>移転候補地について、組合所有地を定期借地権方式で賃借する可能性が報じられているが、その契約内容や財政負担が不明確である。一般に賃借地では、賃料の継続支払いに加え、契約終了時に建物撤去と原状回復費用が発生し、市に長期的な財政負担と将来への負の遺産を残す恐れがある。こうした重要事項は基本構想で明確に示されておらず、市は行政責任として方針を明確にした上で意見募集を行うべきである。十分な情報を示さないまま、市民に計画の賛否を問うことは適切ではない。</p>	<p>土地の権利形態につきましては、土地所有者である伊勢崎織物協同組合との協議を進めている途中であり、購入、普通借地、定期借地など様々な方法について、引き続き、土地所有者である伊勢崎織物協同組合の意向も踏まえ、協議を進めてまいります。</p>
20	<p>本件基本構想は、事業に不可欠な「人・物・金」の要素や具体的な実施方法が明確でなく、抽象的なキーワードに留まっている。また、権限と責任に基づく組織体制や運営ルールが示されておらず、主体が不明確である。 さらに、市の責任は本来、地域全体の活性化にあるにもかかわらず、本構想は旧市街地活性化に限定されており、妥当性に欠けると考える。</p>	<p>基本構想(案)では、本拠点の核となる図書館の機能に加え、織物産業伝承機能及びインキュベーション機能の基本的な方向性を示しているものであります。基本構想(案)1ページに記載している1.基本構想策定の背景と目的のとおり、中心市街地の再生と活性化が課題となっており、整備済みの伊勢崎駅南口駅前広場及び伊勢崎市保健センター(くわまるプラザ)に加え、中心市街地におけるにぎわい創出の第3の核として本拠点の整備によりにぎわい創出を目指しております。</p>
21	<p>赤石楽舎に設置された「maneki」との役割の違いを明確にしたほうがよい。 「maneki」は大学との連携を通じた社会教育の一環(生涯学習課より)とのことなので、新施設では広域の幅広い世代に伊勢崎に伝わる織の歴史や生活とのつながり、作品鑑賞、織物文化をお話していただける伊勢崎ゆかりの方のお話会などで展開されてはどうか。</p>	<p>赤石楽舎に設置された「maneki」は、大学との連携を通じた社会教育の一環として、サテライト研究室を設置したものであります。 今後は、赤石楽舎を活用した体験学習、ワークショップの開催などを通じ、その研究と活動の成果が期待されております。将来的に本拠点と「maneki」のそれぞれの機能が相乗効果を発揮するよう検討してまいります。 また、伊勢崎銘仙については、本拠点に導入する織物産業伝承機能により、織物の価値を知り、織物・銘仙に深く結びつく歴史、文化を知る機会を創出するとともに、複合施設内の各機能との有機的な連携により拠点の価値を高めることで生まれるにぎわいが周辺へと広がるまちづくりを進めてまいります。 基本構想の文言等は原案のとおりとします。</p>
22	<p>伊勢崎銘仙という世界的に有名で、一世風靡したこの伝統を、この町づくりに生かして欲しい。</p>	<p>現時点において本拠点にサテライトスタジオを設置する考えはありませんが、本拠点と利用者、市民とがつながり愛される施設となるために、ご提案のラジオ放送を活用することは魅力的なアイデアであると考えます。 この他に具体的なご提案をいただきましたが、今後の運営体制、スペースの活用方法、利用促進策など今後細部を検討する際に貴重な意見として参考とさせていただきます。</p>
23	<p>「情報発信」は防災・にぎわい創出という観点から重要だと考える。伊勢崎市といせききFMは連携協定も結んでいることから、いせききFMのサテライトスタジオを常設し、災害時には市や関連機関、地域住民にマイクを開放し、平常時は子供たちが新施設やまちなか取材した番組を放送してもよいと思う。上毛新聞伊勢崎支局もここに加わると一層強固なものになるのではないだろうか。 明星電気の持つ気象に関する情報も発信に値すると思う。 利用促進という点では、にじみ出しも視野に捉え、伊勢崎市観光物産協会や商工会議所のコーナーを設け、マップを設置や商品の一部を購入できるとよいと思う。</p>	<p>現時点において本拠点にサテライトスタジオを設置する考えはありませんが、本拠点と利用者、市民とがつながり愛される施設となるために、ご提案のラジオ放送を活用することは魅力的なアイデアであると考えます。 この他に具体的なご提案をいただきましたが、今後の運営体制、スペースの活用方法、利用促進策など今後細部を検討する際に貴重な意見として参考とさせていただきます。</p>
24	<p>居住地域や年齢、職業、国籍問わず多くの方に本拠点の完成を楽しみにして頂き、完成後に頻繁に利用してもらうための仕掛けがあるとよい。具体策として、施設名やキャラクターの公募は有効ではないか。 また、検討委員会の様子や意見も長い文章で示すより学級新聞みたいな読みやすいもので小分けに発信、シリーズ化してはどうだろうか。 基本構想(案)が成長を続けるために、今後は具体化していく施策の提示も必要と感じる。運営を担うのは誰なのか、館長はどうするのかも早い段階で決め、議論に加わってもらうことが得策だと思う。</p>	<p>基本構想(案)の検討過程につきましては、ホームページの公表のみならず、情報メールや市公式X、Facebookなどの各種SNSにより周知を図ってまいりました。将来にわたって市民が愛着を持てる施設を創るため、一人でも多くの方に「自分たちのための施設である」と実感していただけるよう、引き続き、透明性を持った情報発信と、声の届く仕組みづくりに努めてまいります。 このほかの市民参加型の取組等に関するご意見につきましては、今後の検討の際の参考といたします。 基本構想の文言等は原案のとおりとします。</p>
25	<p>本構想(案)については、その経緯やコンセプトが市民に十分周知されておらず、計画自体を知らない市民も多いと感じられる。 また、現状では一般市民の目に触れる機会が少なく、基本的な情報さえ十分に伝わっていないと感じる。市民のための施設である以上、より目立つ形で積極的にアピールし、幅広い市民の理解と関心を高める取り組みが必要だと思う。 (同趣旨の意見等 2件)</p>	
26	<p>外構整備はレンガの舗道と芝生の庭園とし、市民参加型の名入りレンガ(前橋馬場川通り方式)とし、市民の協力募金によって整備されることを提案する。</p>	
27	<p>財政的な視点からクラウドファンディング等を考えてはどうか。 全国に呼び掛けて、「こんな図書館があったら、いいな」という建物、運営方法を、懸賞を懸けて、一般募集してもよいのではないか。</p>	

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方(案)
28	市民として新施設に大きな期待を寄せており、憩いや生涯学習の場として長く愛される空間を望んでいる。特に、TOYAMAキラリ(富山市立図書館)や太田市美術館・図書館のように、建築・美術・文化発信を担う複合施設を参考とし、図書館、美術展示、カフェ、イベントスペースが緩やかにつながる文化拠点となることを期待する。多世代の交流や市外からの来訪を促す観光資源となれば理想的であり、課題はあるものの実現を期待したい。	ご提案のとおり本拠点が長く愛される空間となり、多世代の交流や市外からの来訪を促す特徴のある施設となるように、他市の先進事例の収集と視察を重ねて検討を進めております。この中で、地域の伝統と文化を生かした独自性のある施設に多くの人が流れております。 本拠点においては基本構想(案)59ページの5.3.2.施設計画にあたっての配慮事項に記載した施設全体・意匠デザインに、伊勢崎の歴史や伝統文化(伊勢崎絁等)が感じられる外観や内装のデザインを取り入れることとし、吹き抜けを活用したダイナミックなインスタレーションアート(布、映像、光などを用いた空間全体を使った現代アート)の要素も取り入れていく方針であり、時期に合わせた魅力ある展示を工夫し、伊勢崎らしい独自性のある施設を目指してまいります。 また、カフェ、イベントスペースとして活用できる屋外広場も建物と連続するように関係性を持たせ、市外からも人が訪れるよう魅力ある拠点づくりを検討してまいります。
29	駐車場の収容力200台以上を確保するため分棟パターンによる方式に賛同する。	基本構想(案)60ページに記載のとおり、本拠点の整備形態は事業手法の検討の中で、「合築パターン」によって果たされる機能面と、「分棟パターン」によって縮減される建設コスト、施設の使いやすさ、機能の分かりやすさなど、それぞれのメリット、デメリットを比較衡量し、より優位性のあるパターンを採用してまいります。 基本構想の文言等は原案のとおりとします。
30	周辺の市有施設、赤石楽舎、明治館及び移転後の旧図書館の一体管理によりそれぞれ「音楽練習施設」「美術館」「カフェ」の機能を持たせることを提案する。	本拠点と隣接する赤石楽舎、いせさき明治館はそれぞれ別に管理することを想定しておりますが、それぞれの機能分担に配慮していくとともに、それぞれが連携して相乗効果が発揮できるよう検討を進めてまいります。 なお、カフェについては、基本構想(案)107ページに記載のとおり本拠点に設置する計画です。 伊勢崎市図書館移転後の現施設の利活用については、みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会からの提言を踏まえ、老朽化の状況や安全性等を十分に考慮した上で、利活用の可能性について検討していく方針を基本構想に追記します。
31	「まんが、アニメ創造スペース」を提案する。幼児期から創造性を育み、AI機能と手軽に接触できるスペースが必要だと考える。 「国際交流スペース」の設置を要望する。外国人共生社会を目指す伊勢崎市にふさわしい常設の交流スペースが有効だと考える。 「ペロプスカイト式太陽光パネル」の設置を提案する。SDGs未来都市として建物の屋根部分に日本で開発された太陽光パネルを積極的に取り入れることを提案する。	本市では、昨年11月2日に国籍、言語等の異なる市民が互いの文化的な違いを認め合い、共に安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現に寄与することを目的として多文化共生センターを開設しております。本拠点では、基本構想(案)58ページの5.3.拠点全体の整備方針に記載のとおり、高齢者や障がいのある人に加え、外国籍の人など多様な人々が来訪しやすく利用しやすい、インクルーシブな拠点整備を目指してまいります。 また、基本構想(案)59ページに記載のとおり、本拠点では、省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、ZEB水準に適合した建築物とするとともに、再生可能エネルギーの採用等、環境負荷低減に配慮するとともに、「伊勢崎市ゼロカーボンシティ宣言」「いせさきGX」を踏まえ、本市が進める脱炭素化に向けた取組の推進に寄与するものとしてまいります。 このほかのご提案については、貴重な意見として参考といたします。
32	外国籍の方々が、関われる町なかづくりの視点も欲しい。	
33	伊勢崎駅～複合施設間の第4世代自動運転ミニバスによるシャトル運行の導入を提案します。一定期間の試験運行の後、美術館、保健センターの循環運行で一体性を高める効果を期待します。	基本構想(案)105ページに記載のバス停・モビリティポートの設置につきましては、関係機関と調整の上、検討を進めていく考えです。ご提案いただいた自動運転等の次世代交通システムについても、将来的な技術動向や他施設との一体性を高める手法の一つとして、今後の検討の参考といたします。 基本構想の文言等は原案のとおりとします。
34	伝統織物継承機能は未来志向に捉え「ファッションショー」を定期開催し、国内外から注目されるレベルの独特のコレクション「いせコレ」を世界へ発信する試み「伝承から未来へ」の発想を提言いたします。	現段階においては、本拠点でどのようなイベントを開催していくかについては検討しておりません。 開設後に展開するイベントの貴重なアイデアとして参考とさせていただきます。
35	伊勢崎駅南口駅前広場、今回計画の「賑わい施設」、「くわまるプラザ」がトライアングルのような拠点整備を基本としているが、「大手町パティオ」はどうしたのか。「パティオ」の存在さえも知らない市民が大半ではないか。	基本構想(案)53ページに記載のとおり伊勢崎駅南口駅前広場をにぎわいの核、くわまるプラザを子育ての核、本拠点を文教学びの核としております。中心市街地の再生・活性化に向けては、3つの拠点での機能分担を明確にした上で、拠点相互の連携を通じて、中心市街地内を歩いて楽しめるまちづくり(ウォークアブルなまちづくり)として展開するものです。 大手町パティオにおいても伊勢崎駅南口駅前広場との連携により、より多くの市民や団体にご利用いただけるよう、積極的な情報発信に努めてまいります。

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方(案)
36	<p>自然である広瀬川、雄大な赤城山、伝統的な建物(明治館、伊勢崎神社、相川考古館等)との、連携が希薄だと思ふ。住民が、地域に誇りを持つときは、歴史と伝統、先人の業績に感動し、それを引き継いでいくという使命感に気づき、行動化する時だと思ふ。</p> <p>織物会館のところに、新しい図書館をつくるという前提を考えないで、旧図書館となる今の図書館、北小学校、赤石学舎、広瀬川、赤城山、そして、新しい図書館との連携、協力等を考慮して、機能的、総合的な空間を創って欲しい。「水路」を伊勢崎駅から、造成していてもいいかもしれない。福岡の柳川、京都の鴨川のように、広瀬川の川岸で、散歩し、子供達が遊べる空間の中に新図書館があるといい。</p> <p>本市の中心市街地は、相川考古館の埴輪、茶室、そして、伊勢崎藩の学習堂(尊王の高山彦九郎が関わった藩校)、明治館も山県大弐の子孫で大正天皇の侍医を務めた意思の病院跡であること、民謡の収集家の町田佳聲、「八甲田山死の彷徨い」で有名な福島泰蔵、郷学(ごうがく)という藩校と寺小屋の中間に位置する学びの場が全国一であった場所である。歴史と伝統に乗った町づくりが求められている。桂離宮みたいな日本庭園が、近くにあるといい。</p> <p>「建物を建てる」「建物をどう運営していく」という視点でなく、地域のコミュニティを再生していくか、地域の住民をどのように図書館等と関わらせといくかという視点が欲しい。令和にふさわしいコミュニティを、コロナ禍を経て、創造するチャンスなので、JC、商工会議所、ロータリークラブ、商店街等と連携して行って欲しい。</p>	<p>基本構想(案)に関して多角的な視点からの貴重なご意見をいただいておりますが、図書館には、本の貸出しだけでなく、多様なサービスの提供が求められており、現在の伊勢崎市図書館には、閲覧スペースや書庫といった図書館の中核的なサービスのためのスペースも不足し、交流型事業の実施や滞在型サービスの提供をしていくことが困難な状況となっておりますことから、現在の図書館の移転を機に中心市街地の活性化を目指しております。</p> <p>また、地域のコミュニティを再生に向けた、図書館の役割に関する提案をいただきましたが、本拠点の開設により、地域コミュニティの再生に刺激を与え、中心市街地における「3つの拠点」が相乗効果を発揮することで、エリア全体のにぎわい創出につなげてまいります。</p> <p>本市出身の歴史的人物等に関するご提案については、貴重なアイデアとして参考といたします。</p>
37	<p>新たな図書館施設において、市が保有する図書や資料を十分に展示・収蔵できるのか疑問である。特に、4階建て施設のうち1フロアに対応する計画では、規模的に無理があるのではないかと。専門知識のない市民の立場から見ても、収蔵・展示スペースの不足が懸念される。</p>	<p>基本構想(案)で示しているイメージ図や機能配置は、想定する各機能の必要諸室や、機能間の関連性を整理するために作成したものであり、建物の形状や各階の具体的なレイアウトを決定したものではございません。</p> <p>なお、図書や資料を展示・収蔵するスペースを1フロアに対応する考えはありません。</p> <p>整備形態(合築または分棟など)のパターンを比較検討し、限られた面積の中で効率的かつ効果的に資料を展示・保管できる配置とするとともに、図書館としての機能だけでなく、関連する機能との連携を整理することで、資料に触れやすい動線を確認してまいります。</p>
38	<p>ワークショップでは、新施設建設を前提に議論が進められており、その進め方に疑問がある。先進事例が示されているものの、本市の実情に合致するかは不明であり、賑わいの乏しい現状で新たな賑わいを行政主導で創出できるのか疑問に思ふ。</p> <p>かつての商店街の賑わいは、市民や地域から自然に生まれたものであり、施設整備だけで再現できるものではない。織物の歴史継承は必要だが、過度な予算投入は必要ない。</p> <p>北小学校の北側の文化財収蔵庫に古代の出土品が保管されているが、十分に整理されていない。これらを整理して展示するなど活用する考えはないか。一方で、単なる箱物整備の時代は既に終わっており、施設整備は慎重であるべきと考える。</p> <p>また、本市出身の偉人である町田佳聲氏や鈴木惣太郎氏をはじめとする歴史的人物を顕彰・紹介する展示を、新たな賑わい施設に組み込むことで、文化的価値と魅力の発信につなげる可能性がある。こうした地域資源を活かした発想が必要だと思ふ。</p>	<p>基本構想(案)50ページで示しているとおり、本拠点が目指す「にぎわい」とは、「様々な交流によるにぎわいを生み出す拠点となること」を基本とし、その交流の中から経済的な活動が生まれ広がることを通じて、周辺地域への商業・経済活動が誘発されることを目指すものです。</p> <p>中心市街地全体のまちづくりには、中心市街地の3つの拠点での機能分担を明確にした上で、拠点相互の連携を通じて、中心市街地内を歩いて楽しめるウォークアブルなまちづくりを展開していく考えです。</p> <p>本市出身の歴史的人物等に関するご提案については、貴重なアイデアとして参考といたします。</p>

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方(案)
39	<p>図書館ミーティングに参加して、図書館は子どもの声を未来につなぐ「屋根の付いた広場」として、市民の誇り(シビックプライド)や創造性を育む場であることや、余白のある空間から共創が生まれ、先見性と行動力をもつ人材によって都市の魅力は高まるものと感じた。</p> <p>本市では信越化学の進出などを背景に、世界水準の先進的で人に優しい図書館を整備する好機にあり、居住促進や人材定着も期待される。かつて市民参加による提案が実現し、全国的注目を集めた北小学校・赤石楽舎の事例のように、市民の教養とボランティア精神を活かし、国内外から視察を呼ぶ都市を目指してほしい。</p>	<p>基本構想(案)63ページに記載のとおり、図書館は、あらゆる情報や知識とつながる知の交流拠点であり、多くの市民に新たな価値観を提供し、その知的好奇心を満たすための場です。今後も新しい世界への扉を開く手助けをするとともに、地域と市民を結ぶ接点として、シビックプライドを育む文化施設としての役割を果たしてまいります。</p> <p>基本構想(案)122ページに記載のとおり、本構想の検討にあたり、「みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会」や高校生グループインタビュー及び市民ワークショップでの議論等の取組みを通じて、利用者の視線で様々なアイデアが共有されました。これらアイデアの一つ一つの実現に向けて、本構想を実現・実行するまでの様々な機会に、市民の声が届くような仕組みづくりを継続的に進め、完成後も「育てる施設」としてブラッシュアップされ続ける施設づくりを目指してまいります。</p>
40	<p>いせさき明治館は移転後、軌道に乗るまで多くの関係者の苦勞と、個人の私費による地道な収集努力があって成り立ってきた。</p> <p>銘仙の収集や展示は、情熱と愛情をもつ個人や関係者の継続的な関わりによって支えられており、場の魅力はそうした人の思いから生まれる。単に施設を整備するだけでは人は集まらず、熱意ある担い手の存在こそが重要だと思う。</p>	<p>いせさき明治館での銘仙の収集・展示が、多くの人に親しまれてきたのは、単なる施設の存在ではなく、地道な収集努力や情熱を持って関わり続けてこられた「担い手」の存在があったからこそであると認識しております。</p> <p>新たな拠点においても、これまで織物文化を支えてこられた方々の思いや知見を尊重し、それをいかに次世代へ引き継いでいくかが課題となります。今後、具体的な事業内容の検討を進めるとともに、情熱を持った担い手や市民が主体的に関わり続けられるような仕組みづくりを検討してまいります。</p>